

言語研究所研究報告

1. 沖縄石垣島方言調査報告

「石垣島の高校生の俚言の保持について」

2. 日本語教育「語いの指導についての研究」

I. 「漫画、サザエさんに使用された動詞の分析結果から」

II. 「語感の広がり；連想的意味の調査結果から」

この研究報告に関する調査、分析は金森ゼミナールの学生以下10名と共に行なわれた。

大谷ひろみ 金城和子 柴田美和 下村洋子 並里美和
森 圭子 宮城枝美子 宮良園子 吉田正子 龍頭由香

1. 沖縄石垣島方言調査報告

「石垣島の高校生の俚言の保持について」

金 森 強

はじめに

一般に国語教育とマスメディアの発達により各地方のそれぞれの言語上における特色がだんだんと失われてきているようである。学校内で方言を使うと罰を与えられるという極端なことが行なわれている所さえあるそうで、ここまで来ると共通語重視の国語教育に全面的に賛成するわけにはいなくなる。しかしながら、確実にこの共通語へと方向は向けられているのである。子供たちの言葉を聞いているとどうも私の使うものとは違っている。長崎で21才になるまで暮らした私が用いる長崎弁とは違う言葉を彼らは使っているように思える。どこがどう違うのかははっきりとは分からないが、共通語に見られるものを彼らの言葉はより自然に、またより多く取り入れているような気がする。

学生時代、私は最初の半年間無口な男で通っていた。ただしゃべれなかっただけなのだ！共通語を。友達は夏休みを過ぎてからの私の変わり様に驚いていた。自分の意志を相手に思い通りに伝えられるというのは本当に素晴らしいことである。ただし、だからと言って共通語の習得を無理に進めることには賛成できない。方言にしかない素晴らしい何かがあるはずである。寝台列車で故郷へ向かう中、ふと気づくと周りの人たちの言葉が変わっていた。なんとなく嬉しかったのを覚えている。各地の人が自分たちの意見を自由に交換し伝達する為に共通した言葉が必要となるのではあるが、それが、個々の持つ方言を撲滅するような方向にむかってはいけないのである。逆に変化していく言語を無理に元の形のままで保たせて行こうとするのもおかしな話である。言語は変化するものである。社会が変わっていくのと平行して言語もその姿を変えていく。この変化がどうしておこるのか？その変化に何等かの規則性があるのか？研究の対象としては十分なものであろう。

ゼミの学生の中に沖縄県出身者が4人いた。私と話す時はそうでもないが、仲間同志で話すのを聞いていると、彼女らの言葉の中には多くの俚言¹がのこっているようである。ことあるごとに、この語いの違いについて話をしているうちに興味が出てきた。本当に沖縄の言葉にはまだ多くの俚言がのこっているのか？若い人とお年寄りでは違いがあるのか？男と女ではどちらが多くこの俚言を用いるのか？同じ島の中でも地域によって違いがあるのか？八重山方言に属する石垣島からきている学生が2人いたので、彼女らの所を拠点として石垣島の方言（俚言）を夏休みに調査することに決定した。

調査手順

本調査の被験者は石垣島八重山高校の生徒：15-17才、男子15名女子25名の計40名と街頭で協力していただいた20代の女性2人、30代の男性1人、40代の女性4人、50代の女性2人、80才の女性

1人である。

I. 被験者には、当日はじめてこの調査に協力してもらうことを告げ、Swadesh²の基礎語100語の中から50語³を選びそれぞれに25の語いを口頭で提示しそれを方言で何と言うかを答えてもらった。それぞれ現在住んでいる場所（町名）と中学校にはいる前までに他の所に住んでいた人たちにはその場所も言ってもらった。質問のさい、被験者同志の話合いがなされないように一人ずつ順番に行ない、質問の内容が自分の番に来るまで分からないように配慮した。被験者の答えを記述するにあたっては地元出身の2人の学生にひらがなを使って記述してもらい、彼女等の耳に少しでも違って聞こえた場合は何等かの形でその違いをあらわすように努力してもらった。

例：頭（ちぶっ）（ちぶる）（つぶる）（ちぶるー）

以下が調査に用いられた語い50語である。

- | | | | | |
|--------|---------|---------|--------|---------|
| 1. 私 | 2. あなた | 3. 一 | 4. 二 | 5. 三 |
| 6. 四 | 7. 五 | 8. 女 | 9. 男 | 10. 子 |
| 11. 夫 | 12. 父 | 13. 妻 | 14. 母 | 15. 動物 |
| 16. へび | 17. さかな | 18. いぬ | 19. 草 | 20. 木 |
| 21. 花 | 22. 鳥 | 23. 根 | 24. 卵 | 25. 頭 |
| 26. 髪 | 27. 耳 | 28. 目 | 29. 鼻 | 30. 口 |
| 31. 舌 | 32. 足 | 33. 手 | 34. 腹 | 35. 首 |
| 36. 背中 | 37. 飲む | 38. 食べる | 39. 見る | 40. 聞く |
| 41. 言う | 42. 煮る | 43. 踊る | 44. 遊ぶ | 45. 燃える |
| 46. 吹く | 47. 死ぬ | 48. 殺す | 49. 歩く | 50. 来る |

又、この25個の語いの質問の後に以下の4つの質問にも答えてもらった。

II. 上にあげた言葉（方言）を普通あなたは使っていますか？

1. 良く使う 2. 使うときもある 3. あんまり使わない

III. あなたは普通方言ではなしますか？

1. はい 2. いいえ 3. 使い分ける

（上で3と答えた人） どういうふうに使いますか？

（ ）

IV. あなたは方言をどう思いますか？

1. 良い 2. 共通語の方が良い 3. その他（ ）

V. おじいさんやおばあさんとあなたの使う言葉は同じですか？

1. 同じ言葉を使える 2. 聞くのはできる 3. わからない

結果

I. 表1. は1-50までの語に対して被験者（高校生）が出した形式とその形式をだした人数で

ある。また下線を引いてあるのが石垣島に本来存在すると考えられる形式である⁴。左から多く答えられた順になってある。平均すると高校生の場合一人5.0語の俚言を知っていることになる。(男子5.9語、女子3.6語) 20代以上の人たちの平均16.4語と比べるとずいぶん差がある⁵。

表2は高校生の結果を石垣島の地域(町)別に表したもので、下線を引いてあるのは石垣島に本来存在すると考えられる形式である。

表1. 被験者(八重山高校の生徒40人)がだした形式とその人数

1. 私	わん11 <u>ばぬ</u> 2 わ-2 わんに-1 うち1
2. あなた	や-5 <u>わぬ</u> 1 うんじゅ-1 ゆ-1
3. 一	てい-ち3 ち-ち3 ていち1 ぴてい-じ1 てい-ち-1 ぴち-ず1
4. 二	た-ち10 た-ちゅ1 ふた-ず1 たい-ち1 ふたち1
5. 三	み-ち10 みい-つ1 みい-1 み-ち-1
6. 四	ゆ-ち3 よ-ち3 ゆう-つ1 よ-1 よ-ちい1 ゆ-つ1
7. 五	いちち5 いつつ1
8. 女	いなぐ9 <u>み-どん</u> 3 いなぐ-1 ぴしゃ1 <u>み-どん</u> 1
9. 男	いきが5 <u>びぎどん</u> 3 いきぐわ1
10. 子	<u>ふあ-な</u> -7 わらば-7 わらび4 わらび-2 わらば1
11. 夫	<u>ぶどう</u> 1 うしゅまい1
12. 父	おっと-7 <u>あっちゃ</u> 1 たんめ-1 おと-1 おじ-1 ちゃちゃ1
13. 妻	<u>とうじ</u> 1 あっぱ-1
14. 母	<u>あんま</u> -8 おっか-4 <u>あっぱ</u> -2 おか-1
15. 動物	
16. へび	<u>はぶ</u> 3
17. 魚	いゆ3 <u>いず</u> 1
18. いぬ	いんぐわ-10 <u>いん</u> 1 いんな-1
19. くさ	んちゃ1 <u>ふさ</u> 1
20. 木	き-1
21. 花	
22. 鳥	とういが-4 とうい3
23. 根	<u>にい</u> -1
24. 卵	<u>とうなが</u> 1
25. 頭	<u>ちぶる</u> 12 ちぶる-4 <u>つぶる</u> 1 ちぶ1 ちぶっ1
26. 髪	あかまず2 からじ1 かなじ1 あかまず-1
27. 耳	<u>みん</u> 1

28. 目	<u>み</u> -3 みんなたま3
29. 鼻	<u>ばな</u> 4 ばな-1
30. 口	<u>ふつ</u> -1
31. 舌	<u>すた</u> -1 べろ1 ばた-1 すた-1
32. 足	<u>ばん</u> 3 ひさ1 はん1 ばん1
33. 手	てい-2
34. 腹	わた8 <u>ばた</u> 7 <u>ばた</u> 1 ばた-1
35. 首	<u>ぬび</u> 1
36. 背中	
37. 飲む	ぬむ3
38. 食べる	かむ5 くわる1 ほう1 ほ-1
39. 見る	
40. 聞く	すく1
41. 言う	あんず1 シャべる1
42. 煮る	<u>ばがす</u> 1 に-1
43. 踊る	も-る1 も-や-1 <u>ぶどる</u> 1
44. 遊ぶ	あしぶ1
45. 燃える	め-る1 まわる1
46. 吹く	びらぎ-1
47. 死ぬ	
48. 殺す	死なす4 しぬくわる1 <u>くるす</u> 1 たっくるす1
49. 歩く	
50. 来る	

Ⅱ. 「上にあげた言葉（方言）を普通あなたは使っていますか」の質問に対する答え。

	1. 良く使う	2. 使う時もある	3. あんまり使わない
男子	5人	4人	6人
女子	0人	9人	16人
計	5人 (12.5%)	13人 (32.5%)	22人 (55%)

Ⅲ. 「あなたは普通方言ではなしていますか」の質問に対する答え。

	1. はい	2. いいえ	3. 使い分ける
男子	0人	9人	6人
女子	0人	22人	3人
計	0人 (0%)	31人 (77.5%)	9人 (22.5%)

3. の「使い分ける」と答えた人でその使い分け方として次の2つをあげている。

イ. 家族、親戚の人には方言を使うがそれ以外の人には共通語を使う。

ロ. 友達と話しをするときは方言で、先生や目上の人と話すときは共通語で。

Ⅳ. 「あなたは方言をどう思いますか」の質問に対する答え。

	1. 良い	2. 共通語の方が良い	3. その他
男子	7人	5人	3人
女子	13人	6人	6人
計	20人 (50%)	11人 (27.5%)	9人 (22.5%)

3. のその他の意見として次の3つがあげられた。

イ. 方言は汚い。 ロ. 分からない。 ハ. どちらでも良い。

Ⅴ. 「おじいさんやおばあさんとあなたの使う言葉は同じですか」の質問に対する答え。

	1. 同じ言葉を使える	2. 聞くのはできる	3. わからない
男子	0人	10人	5人
女子	3人	16人	6人
計	3人 (7.5%)	26人 (65%)	11人 (27.5%)

表2. 被験者が出した結果の地域別分類

	登野城			新川			石垣			新栄町	白保	平久保	川原	平得
	わんにー	わん	わぬ	わん	ばぬ	石垣	石垣	石垣	石垣					
1. 私	わんにー	わん	わぬ	わん	ばぬ	ばぬ				わん		わー	うち	
2. あなた	やー	ゆー	やー	やー	わぬ	わぬ						やー	やー	
3. ー	ていーち	ていーち	ていーち	ていーち	びていーじ	びていーじ	びちーず	びちーず				ていーち	ちーち	
4. 二	たーち	たーち	たーち	たーち	ふたち	ふたち	ふたーず	ふたーず				たーち	ちーち	
5. 三	みーち	みーち	みーち	みーち	みーち	みーち	みーつ	みーつ				みーち	みーち	
6. 四	ゆーち	ゆーち	ゆーち	ゆーち	ゆーち	ゆーち	ゆーつ	ゆーつ					よーち	
7. 五				いちち	いつつ	いつつ							いちち	
8. 女	いなぐ	いなぐ	いなぐ	いなぐ	みーどん	みーどん				びしえ	みーどん	いなぐー	いなぐ	
9. 男	いきが	いきが	いきが	いきが	びきどん	びきどん	びきどらん	びきどらん			びきどらん		いきが	
10. 子	わらばー	わらび	わらび	ふあーなー	ふあーなー	ふあーなー	わらば	わらば		ふあーなー	ふあーなー	わらびー	わらばー	
11. 夫					うしゅまい	うしゅまい	ぶどう	ぶどう						
12. 父	おとー	おとー	おとー	おとー	おじい	おじい	ちやちや	ちやちや	おとー		たんめー			
13. 妻				とうじ	あっぱー	あっぱー			あっぱー					
14. 母	おかー	おかー	おかー	あんなー	あんなー	あんなー	あんなー	あんなー			あんなー	あんなー		
15. 動物														
16. 蛇				はぶ	はぶ	はぶ							はぶ	
17. さかな	いゆ	いゆ	いゆ	いゆ	いず	いず								
18. いぬ	いんぐわー	いんぐわー	いんぐわー	いんぐわー	いん	いん	いんぐわー	いんぐわー		いんぐわー		いんぐわー	いんぐわー	
19. 草					んちや	んちや	ふさ	ふさ						
20. 木					きー	きー								
21. 花														
22. 鳥	とういがー	とうい	とうい	とうい	とうい	とうい								
23. 根				にー	にー	にー								
24. 卵					とっなが	とっなが								
25. 頭	ちぶる	ちぶっ	ちぶる	ちぶる	ちぶる	ちぶる	ちぶる	ちぶる	ちぶる	ちぶる	ちぶる	ちぶる	ちぶる	

	登野城	新川	石垣	新栄町	白保	大川	大浜	宮良	平得	星野
26. 髪						からじ	あかまざー	あかまざ		
27. 耳										
28. 目	みー	みんたま				みんたま		みー		
29. 鼻	ばな	ばな	ばな				ばな			
30. 口										
31. 舌		べろ	ばたー			べろ				
32. 足		ひさ					ほん	ほん		
33. 手										
34. 腹	ばた	わた	わた	わたー		ばた	わた	ばた	わた	ばたー
35. 首										
36. 背中										
37. 飲む	ぬむ	ぬむ						ぬむ		
38. 食べる	かむ	かむ	くわる			かむ	ほう	ほー		
39. 見る										
40. 聞く								すく		
41. 言う						しゃべる				
42. 煮る		にー								
43. 踊る	ぶどる	もーる					もーやー			
44. 遊ぶ						まわる				
45. 燃える		めーる								
46. 吹く							びらぎー			
47. 死ぬ										
48. 殺す	死なす	たっくるす	しなす	しなす	しなす	しなす				
49. 歩く										
50. 来る										

<考察>

20代以上の人たちの16.45語に比べると俚言の保持率はその半分以下になっている。しかし同じ調査を諫早でやったらもっとその数は低くなると思われる。本学の学生20名を被験者として同じ調査をやってもらったが、誰も一つとして答えられなかった。石垣島における高校生の俚言の保持率は20代以上に比べると低く成ってきてはいるが、V.の質問に対して70%以上が祖父母の言葉を聞いて理解することができるかと答えているところから考えても、使用語いからその姿は消えてきているが、また理解語いとして彼らの言語にあると言えるのではないだろうか。ただし、それらの語いの多くは本来石垣島に分布していた形式ではなく沖縄本島や他の島からこの島に移って来た人間とともに入ってきた形式のようである。例えば、1.の「私」をあらわす「わん」は沖縄本島・徳之島・奄美大島に主に分布するもので北琉球の優勢形であるが、これを答えた人が11人もいるのである。以下にそれぞれ石垣島に本来分布しなかった形式の本来の分布地を分かっただけあげてみる。

1. わん 沖縄本島から奄美大島まで、「わー」は「わん」が主各として用いられた形式だと思われる。
2. やー 沖縄首里方言の？ ja:からではないだろうか。
うんじゅ 沖縄首里方言？ undzuからであろう。
8. いなく 沖縄南部中心に北部まで広がりがある。
9. いきが 奄美・沖縄の北琉球
12. おっとー 北琉球の「夫」を表す形式が石垣島に入って「父」を表すようになったのではないか。「父」に対して南琉球には「ぶどぅ形」の語が分布する。
ちゃちゃ 沖縄北部
17. いゆ 沖縄中南部と喜界島、与那国島と西表島
18. いんがー 北琉球
22. とうい 北琉球
26. からじ 沖縄本島、喜界島、沖永良部島、与論島、宮古島
32. ひさ 沖縄本島と周辺の島
34. わた 北琉球
42. にー 宮古島、西表島、多良間島

<おわりに>

高校生の俚言の保持率からもわかるように、その数は、減ってきてはいるものの石垣島の言葉にはまだ多くの俚言が残っているようである。男子よりも女子の方がその使用は少なく、意識の上でも方言の使用は少なくなっている。今回の調査からは特に地域別の特色を見出すことはできなかった。現在使用されている俚言は本来から石垣島に分布するよりも本島や他の島からのものが多く、島への外部からの人口の流入と密接な関係にあると思われる。今後この人口移動の事実や文化

上の本島、他の島との関係などを考慮しながら、調査の幅を広げ、更に深く研究を進めていこうと考えている。

初めての調査でいろんな不手際があって思い通りにはいかなかった。街頭で声をかけてもほとんどの人から無視されて、時間をかけた割にはあまり人数がいかなかったのが残念でならないが、次回への準備段階として今回の失敗を反省し活かして行くつもりである。石垣島滞在中はいろいろな人にお世話になった。特に、並里さん、宮良さんのご家族、八重山高校の野球部、バレー部のみなさん、そしてドライバーとして活躍してくれた林君本当にありがとうございました。

注

- 1 九州の「よか」（良いを意味する）のような他の地方では使われない特別な語いのことを俚言と言う。
- 2 Morris Swadesh が、通時上、2つの言語が分かれた年代を研究するために考えた言語年代学における基礎語いのリスト。
- 3 中本正智氏の図説琉球語辞典（1981）にその歴史と分布が記載されている語をなるべく選んである。
- 4 中本正智（1981）参照
- 5 20代以上の被験者は10人しかいないし年代もばらばらなので十分な資料とは言えないが、下にその結果を記す。

20代	（2人）	平均	14
30代	（1人）		12
40代	（4人）	平均	16
50代	（2人）	平均	20
80代	（1人）		20
			平均 16.4

参考文献

- 国立国語研究所 「語いの研究と教育（上）」 1984 大蔵省印刷局
真栄城守定 「八重山・島社会の風景」 1982 南西印刷
中本正智 「琉球方言音韻の研究」 1976 法政大学出版局
「図説琉球語辞典」 1981 力富書房
中本正智、比嘉実 「沖縄風物誌」 1984 大修館書店
平山輝男 「日本の方言」（講談社現代新書） 1986 講談社
月刊言語 Vo1. 12 No. 4 沖縄学入門 1983 大修館書店
Bynon, Theodora Historical Linguistics London: Cambridge